

酒井甚之助さんのこと

真地集会所前の道路を隔てた向こう側に、台もろともに三メートル余りの大きな石碑がある。正面には「故海軍少尉候補生、酒井甚之助君之碑」と刻まれている。

甚之助さんは、櫻井家の山番であった酒井彌太郎の次男として明治十六年に内谷に生まれた。生来勉強好きで努力家であり、明治二十三年、内谷小学校（櫻井家による観音堂での私学校が前身）に入学、更に修了後は、郡内にただ一校しかない三成小学校高等科に片道約十五キロメートルを往復して勉学に励み、更には松江中学校に進学し、そこを終えると日本海軍の士官を志し、当時難関中の難関であった江田島の海軍兵学校に入学した。この事は家門の名誉と村人の栄誉であり世間の羨望の的でもあった。その時、第二次世界大戦の当初、連合艦隊司令長官であった山本五十六元帥も同校在学中であり、又賀陽宮殿下とは同期の第三十五期であった。

兵学校での学業も終わりに近づき、最後の航海訓練のため、練習船松島艦に乗船し遠洋航海の途につき、最後の目的地であるシンガポール迄の訓練を終えその目的を達しての帰路、明治四十年四月三十日ボーコ島沖で突然の火薬庫の爆発という不慮の惨事にあい、乗艦していた卒業間近の



酒井海軍少尉候補生も艦と運命を共にし、殉職した。時に二十五才の若さであった。

この死を悼み櫻井三郎右衛門外二十六名（阿井地区外も含む）の発起により、阿井川（米原地区）より大きな川石を運び、甚之助さんの生涯の努力を称えんと共にその死を悼んで、冒頭に書いた碑が今の地に建立された。時に明治四十二年十月……従七位毛利八彌さんの筆による碑文が裏面に刻まれている。

墓は、真地集会所横の橋の元から櫻井家に向う道路の左上の小高い所にあった。石碑正面上部に日の丸の旗と海軍旗を交叉させ、その下に専心院？義昌海潤居士と刻まれ、他の三面には甚之助の一生が刻まれている。（現在墓は町外へ移転されている）

自分が生を受け、生きねばならないその時代に全精魂を打ち込んだが、目的を果たし得なかった酒井甚之助さん、どれほど無念だったろうか……。



石碑裏碑文

君雲州仁多郡阿井村人父彌太郎君其二子也資性剛健好學其學於中學也成績常超儕輩卒業入海軍兵學校自且及深夜黽勉不已學德日進而又用意於體育練磨不懈遂學魁然偉丈夫其心與此穰真赴々武夫矣教官之囑望學友之推重萃於君身者固其所也明治四十年爲海軍士官候補生明年春駕練習艦就遠洋航海之途歸途泊於澎湖島附近偶其一艦松島遭不慮災君與艦共沈享年二十有五

島根縣松江中學校教諭

文學士 柳井幸弘撰

碑面 從七位毛利八彌書